

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：株式会社スイッチ 下館事業所	種別：就労継続支援	
代表者氏名：児嶋 正樹	定員（利用人数）： 20 名	
所在地：〒308-0811 茨城県筑西市茂田1773-7		
TEL：0296-45-5095	ホームページ： https://peraichi.com/landing_pages/view/switch-shimodate/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成30年12月1日		
経営法人・設置法人（法人名等）：株式会社スイッチ		
職員数	常勤職員： 7 名	非常勤職員： 1 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
施設・設備の 概要	（居室数） 3 室	（設備等）

③理念・基本方針

働く喜び、人の役に立つ喜びを知る人間を創る。

④施設・事業所の特徴的な取組

様々な仕事を用意し利用者さんの得意分野を見出し、伸ばしてゆく指導法を取っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年5月12日（契約日）～ 令和7年10月14日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（令和4年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

幅広い情報収集と専門人材の配置により地域福祉と利用者支援を充実させている

事業所では、厚生労働省や茨城県、筑西市をはじめ、社労支援ネットワークや精神保健連絡会、相談支援専門部会、サポートセンターなど多様な機関から情報を収集し、社会福祉事業全体の動向を的確に把握している。また、第7期筑西市障害者福祉計画を参照して地域福祉の方向性を確認し、農業や畑の活用といった地域資源の動きにも関心を寄せている。さらに、地域のニーズを反映した「襖張り替え」や「障子張り替え」、「造花制作」といった作業を展開し、地域に根差した活動を実施している。加えて、高次脳機能障害支援養成研修を修了した相談支援専門員や、医療的ケア児に対応可能なコーディネーター研修修了者を配置し、専門性を活かした体制を整えている。これらの取り組みにより、地域社会への貢献と質の高い利用者支援を実現している。

利用者一人ひとりの自主性や主体性に配慮することに取り組んでいる

室内外の各種の作業を途切れることなく提供する体制が整っており、利用者の特性に合わせて配分しているので、熟練して集中して取り組めるようにしていることがうかがえる。地域ニーズを反映した「障子やふすま貼り」、「業務用サランラップの芯抜き」「ナス、ピーマン、シシトウ、ハウレンソウなどの栽培」「季節的な制約を伴うが農協への応援」などの業務を設けている。それらの各業務は本人の意向や要望を把握し、将来的な一般就労も視野に入れて設定することに取り組んでいる。今回行った利用者アンケートの結果からも、各種作業については高い満足度が聞かれていた。

業務の標準化を図る仕組みの整備に取り組んでいる

事業所では現在、業務の標準化を図る仕組みについては、感染症マニュアル、緊急時対応マニュアル、事故対応マニュアル、避難訓練マニュアル、法令遵守マニュアルなどの職員業務を標準化することを目的に作成されたマニュアルに加え、利用者の作業に関する手順書なども設けている。前回の第三者評価の指摘事項が改善されていることは高く評価できる。今後は、さらに利用者の作業に関するマニュアルに充実や定期的に見直す仕組みなどに取り組みに幅を拡げることが望まれる。

◇改善を求められる点

中・長期計画の策定と単年度計画の連動による安定した運営基盤の構築と支援の質向上が求められる

事業所では行動ビジョンをもとに日常運営を行っているが、法人全体としての中・長期計画は未策定である。今後は、人材確保や職員教育、リーダー育成、組織づくり、ICT活用、

支援の質向上などを包括的に捉え、中・長期的な視点で計画を整理・構築していくことが求められる。その際には、SWOT分析などを活用し、将来像を明確にすることが望まれる。また、こうした計画と連動する形で単年度計画を策定し、具体的な目標、人材育成方針、リスク管理、収支予算などを反映させることで、計画全体の実効性が高まり、安定的な運営と継続的な支援の質向上につながることを期待される。

支援計画の短期目標については、さらに明確に位置付けることが望まれる

個別支援計画書には、目標や計画・個別作業などが明記され、支援の方向性が確認できるようになっている。利用者一人ひとりの日々のケース記録を設けており、心身状況・作業状況・計画の進捗状況などを記録することになっている。半年や1年後にはサービス管理責任者を中心に面談やモニタリングを行い、課題達成であれば新たな達成目標を設定して計画の見直しに取り組んでいる。さらに、個別支援計画を策定・見直す際には、短期目標をさらに明確に位置付けることが望まれる。また、見直す際には、都度アセスメントの見直しにも取り組むことも必要とされる。

事業計画を策定し、生活や作業、地域交流などの各種事業を円滑推進することが望まれる

日々の申し送りをはじめ定期的なミーティングなどを通じて事業所内の各種の情報を共有し、事業運営を円滑に行うことに取り組んでいる。ただし、単年度（期首から期末）までの期間を定めて事業計画の作成には至っていない。各種の単年度事業をさらに円滑に推進するのにあたって定期的な会議の場で、各担当からの報告をもとに活動状況を確認しながら事業を推進することが期待される。とくに、事業計画を達成させるための現場での活動を振り返り、課題を見い出しながら取り組むことを期待したい。場合によっては年初の事業計画を見直ししながら推進することも望まれる。業計画を推進する体制を整備し、実践の評価・見直しにつなげることが期待される

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価をしていただき、改めて、自分たちの今までの支援を見直すことができました。個人記録やマニュアルの見直し、新しい視点で見えていただいたことで気付いたこと、スタッフ個人の今後の課題、事業所としての次の目標などが見えてきました。アドバイスいただいたことをすぐに実践し、さらに、より良い支援ができるよう努力していきたいと思います。評価していただいたことをスタッフ間で共有し、話し合いの場を設け、利用者一人一人に寄り添った支援を行っていきたいと思います。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）